

## 例題 1

ある最新式火力発電所において、タービン入口の蒸気圧力は  $p_1 = 3 \text{ [MPa]}$ 、温度は  $T_1 = 560 \text{ [}^\circ\text{C]}$  で、この時の比エネルギーに相当する比エンタルピーは  $h_1 = 3.3 \text{ [MJ/kg]}$ 、出口の蒸気圧力は  $p_2 = 5 \text{ [kPa]}$ 、 $T_2 = 30 \text{ [}^\circ\text{C]}$  で、比エンタルピーは  $h_2 = 0.13 \text{ [MJ/kg]}$ 、蒸気の質量流量は  $\dot{m} = 490 \text{ [kg/s]}$  である。熱効率およびタービン、発電機等の効率を含む全体の効率  $\eta$  を  $45 \text{ [%]}$  とするとき、得られる電力  $P \text{ [W]}$  を求めよ。

### [解答]

タービンの有効揚程を  $H \text{ [m]}$ 、作動流体の流量を  $Q \text{ [m}^3\text{/s]}$ 、密度を  $\rho \text{ [kg/m}^3\text{]}$  としたとき、出力  $P \text{ [W]}$  は、

$$P \text{ [W]} = \eta \times \underbrace{\rho Q}_{\dot{m} \text{ [kg/s]}} \underbrace{gH}_{\Delta E \text{ [J/kg]}} \quad (1)$$

なお、 $\Delta E = gH$  は、タービンが単位質量当りの流体に対してする仕事（エネルギー）である。この  $\Delta E$  は、題意より、

$$\Delta E = h_2 - h_1 \quad (2)$$

式 (2) を式 (1) に代入して、

$$\begin{aligned} P &= \eta \dot{m} (h_2 - h_1) = 0.45 \times 490 \text{ [kg/s]} \times (3.3 \times 10^6 \text{ [J/kg]} - 0.13 \times 10^6 \text{ [J/kg]}) \\ &= 6.99 \times 10^9 \text{ [W]} = 699 \text{ [MW]} \end{aligned} \quad (3)$$

## 例題 2

図 1 に示すようなバーカー水車がある。この水車に付いている 4 本のノズルの内径はすべて同じで  $d = 25 \text{ [mm]}$  である。いま水車の各ノズルから水が  $Q = 7 \text{ [L/s]}$  で噴出し、水車が  $n = 100 \text{ [rpm]}$  で回転しているとき、水車の動力  $L \text{ [W]}$  を求めよ。ただし、水の密度は  $\rho = 1000 \text{ [kg/m}^3\text{]}$  としてもよい。

### [解答]

角運動量保存則より、ノズルから噴出する速度の周方向成分を  $v$ （静止座標系から見た絶対速度）としたとき、一本のノズルによって流体が受けるトルク  $T'$  は、

$$\underbrace{\rho Q (r_2 \times v)}_{\text{出口での各運動量}} - \underbrace{0}_{\text{入口での各運動量}} = \underbrace{T'}_{\text{流体が水車から受けるトルク}} \quad (4)$$

水車にはノズルが 4 本付いているので、水車全体が流体に与えるトルク  $T$  にすれば、 $T = 4T'$  であるので、

$$T = 4\rho Q v r_2 \quad (5)$$

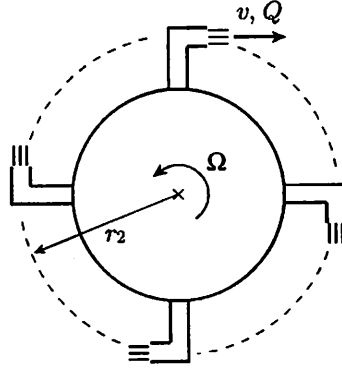


図 1: バーカー水車

ただし、水車からの噴出速度  $v$ （静止座標系から見た絶対速度）は水車の回転速度  $r_2\Omega$  を引くことにより、

$$v = \frac{Q}{(\pi/4)d^2} - r_2\Omega \quad (6)$$

ただし、ノズル断面積は  $A = (\pi/4)d^2$  である。したがって、式 (5) のトルク  $T$  は、

$$T = 4\rho Q r_2 \left[ \frac{Q}{(\pi/4)d^2} - r_2\Omega \right] \quad (7)$$

しかるに、水車の動力  $L$  をトルク  $T$  と角速度  $\Omega$  で表せば、

$$L = T \times \underbrace{r_2\Omega}_{\text{水車の回転角速度}} = T \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} \quad (8)$$

したがって、求めるべき動力  $L$  は、

$$\begin{aligned} L &= 4\rho Q \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} r_2 \left[ \frac{Q}{(\pi/4)d^2} - r_2 \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} \right] \\ &= 8\pi n \rho Q r_2 \left[ \frac{Q}{(\pi/4)d^2} - 2\pi n r_2 \right] \\ &= 8\pi \times \frac{100}{60} [\text{rps}] \times 1000 [\text{kg/m}^3] \times (7 \times 10^{-3} [\text{m}^3/\text{s}]) \times 0.6 [\text{m}] \\ &\quad \times \left( \frac{7 \times 10^{-3} [\text{m}^3/\text{s}]}{(\pi/4)(25 \times 10^{-3} [\text{m}])^2} - 2\pi \times \frac{100}{60} [\text{rps}] \times 0.6 [\text{m}] \right) \\ &= 1.4 [\text{kW}] \end{aligned} \quad (9)$$

### 例題 3

図 2 に示すような、渦巻きポンプの羽根車の寸法は外形  $D_2 = 235 [\text{mm}]$ 、内径  $D_1 = 110 [\text{mm}]$ 、羽根幅は入口で  $b_1 = 27 [\text{mm}]$ 、出口で  $b_2 = 10 [\text{mm}]$ 、出口羽根角は  $\beta_2 = 22.5^\circ$  であった。回転数  $n = 3000 [\text{rpm}]$  のとき、流量は  $Q = 3 [\text{m}^3/\text{min}]$  である。羽根入口で流れ（絶対速度  $v_1$ ）は半径方向に流入するとし、すべての損失を無視して次の問に答えよ。

- (1) 羽根車入口および出口における流れの絶対速度，相対速度，羽根車周速を求め，正確な速度三角形を描け．  
 (2) 理論揚程（オイラーヘッド）を求めよ．

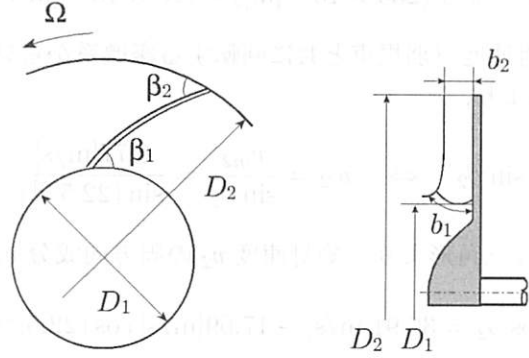


図 2: 渦巻きポンプ

[解答]

- (1) まず，羽根車入口において考える．

羽根車入口の周速  $u_1$  は，羽根車の回転角速度を  $\Omega$  [rad/s] としたとき，

$$u_1 = \frac{D_1}{2} \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = \frac{110 \times 10^{-3} [\text{m}]}{2} \times \left( 2\pi \frac{3000}{60} [\text{rps}] \right) = 17.28 [\text{m/s}] \quad (10)$$

羽根車入口での絶対速度  $v_1$  は，羽根車入口の断面積が  $A = \pi D_1 b_1$  であるので，

$$v_1 = \frac{Q}{\pi D_1 b_1} = \frac{(3/60) [\text{m}^3/\text{s}]}{\pi \times (110 \times 10^{-3} [\text{m}]) \times (27 \times 10^{-3} [\text{m}])} = 5.36 [\text{m/s}] \quad (11)$$

題意より，羽根車に流入する流れは旋回せず，半径方向に流入するので，入口での速度三角形は直角三角形となる（図 3 参照）．図 3 のに示す，羽根車入口での速度三角形より，相対速度（羽根車と共に回転する座標系から見た，羽根に沿う速度） $w_1$  は，

$$w_1 = \sqrt{v_1^2 + u_1^2} = \sqrt{(5.36 [\text{m/s}])^2 + (17.28 [\text{m/s}])^2} = 18.09 [\text{m/s}] \quad (12)$$

また，羽根車入口の羽根角  $\beta_1$  は，

$$\beta_1 = \tan^{-1} \left( \frac{v_1}{u_1} \right) = \tan^{-1} \left( \frac{5.36 [\text{m/s}]}{17.28 [\text{m/s}]} \right) = 17.23 [^\circ] \quad (13)$$

つぎに，羽根車出口において考える．

羽根車出口の周速  $u_2$  は，羽根車の回転角速度を  $\Omega$  [rad/s] としたとき，

$$u_2 = \frac{D_2}{2} \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = \frac{235 \times 10^{-3} [\text{m}]}{2} \times \left( 2\pi \frac{3000}{60} [\text{rps}] \right) = 36.91 [\text{m/s}] \quad (14)$$

羽根車出口での絶対速度  $v_2$  の半径方向成分  $v_{m2}$  は、羽根車出口の断面積が  $A = \pi D_2 b_2$  であるので、連続の式（羽根車入口と出口で流量一定）から、

$$v_{m2} = \frac{Q}{\pi D_2 b_2} = \frac{(3/60)[\text{m}^3/\text{s}]}{\pi \times (235 \times 10^{-3}[\text{m}]) \times (10 \times 10^{-3}[\text{m}])} = 6.77 [\text{m/s}] \quad (15)$$

羽根車出口での相対速度（羽根車と共に回転する座標系から見た、羽根に沿う速度） $w_2$  は、速度三角形より、

$$v_{m2} = w_2 \sin \beta_2 \quad \Leftrightarrow \quad w_2 = \frac{v_{m2}}{\sin \beta_2} = \frac{6.77[\text{m/s}]}{\sin(22.5[^\circ])} = 17.69 [\text{m/s}] \quad (16)$$

さらに、出口の速度三角形より、絶対速度  $v_2$  の周方向成分  $v_{u2}$  は、

$$v_{u2} = u_2 - w_2 \cos \beta_2 = 36.91[\text{m/s}] - 17.69[\text{m/s}] \cos(22.5[^\circ]) = 20.57 [\text{m/s}] \quad (17)$$

したがって、羽根車出口での絶対速度  $v_2$  は

$$v_2 = \sqrt{v_{m2}^2 + v_{u2}^2} = \sqrt{(6.77[\text{m/s}])^2 + (20.57[\text{m/s}])^2} = 21.66 [\text{m/s}] \quad (18)$$

- (2) 羽根車の周方向成分に関する角運動量保存則より、ポンプ内部の流体全体を検査面にとれば、

$$\underbrace{\rho Q (r_2 \times v_{u2})}_{\text{出口での角運動量}} - \underbrace{\rho Q (r_1 \times v_{u1})}_{\text{入口での角運動量}} = \underbrace{T}_{\text{流体がポンプ全体から受けるトルク}} \quad (19)$$

ただし、 $v_{u1}$ 、 $v_{u2}$  はそれぞれ、羽根車入口・出口における絶対速度  $v_1$ 、 $v_2$  の周方向成分である。このポンプの動力  $L$  は、 $L = \underbrace{F \times r \Omega}_{=T} = \underbrace{T \Omega}_{=2\pi n} = 2\pi n T$  より、

$$L = 2\pi \rho Q n (r_2 v_{u2} - r_1 v_{u1}) \quad (20)$$

しかるに、一般に動力  $L$  は質量流量  $\dot{m}$  と理論揚程（オイラーヘッド） $H_{th}$  を用いて表せば、

$$L = \underbrace{\dot{m}}_{=\rho Q} g H_{th} \quad (21)$$

であるので、式(20)と式(21)から、羽根車入口での  $v_{u1}$  はゼロである（羽根車入口で流れは半径方向に流入する）ことに注意して、理論揚程  $H_{th}$  は、

$$\begin{aligned} H_{th} &= \frac{\underbrace{2\pi n}_{\Omega}}{g} (r_2 v_{u2} - r_1 v_{u1}) = \frac{u_2 v_{u2} - u_1 v_{u1}}{g} \\ &= \frac{36.91[\text{m/s}] \times 20.57[\text{m/s}] - 17.28[\text{m/s}] \times 0.0[\text{m/s}]}{9.8[\text{m/s}^2]} = 77.47 [\text{m}] \end{aligned} \quad (22)$$

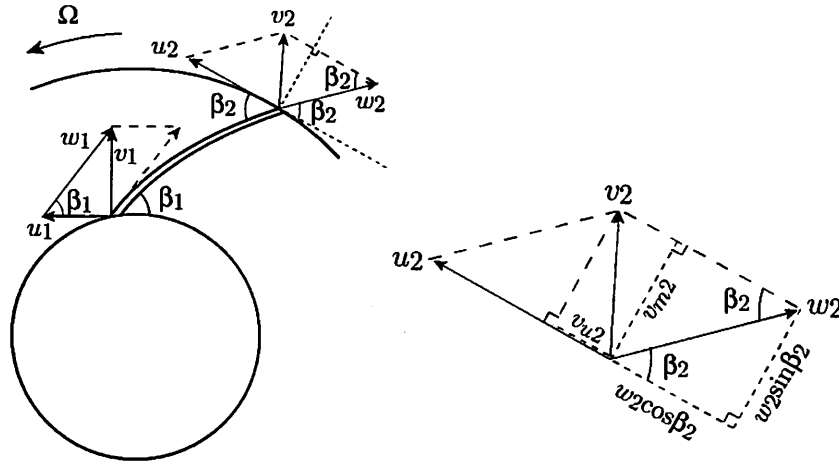


図 3: 渦巻きポンプの速度三角形

#### 例題 4

図 4 に示すような、軸流羽根車が  $n = 1200$  [rpm] で回転している。羽根車平均半径  $r = 300$  [mm] の位置で空気（密度  $\rho = 1.2$  [kg/m<sup>3</sup>]）は軸方向に  $v_1 = 33$  [m/s] の絶対速度で流入し、動翼による相対速度の転向角は  $\delta = 18^\circ$  である。この軸流羽根車の理論揚程（オイラーヘッド）を求めよ。

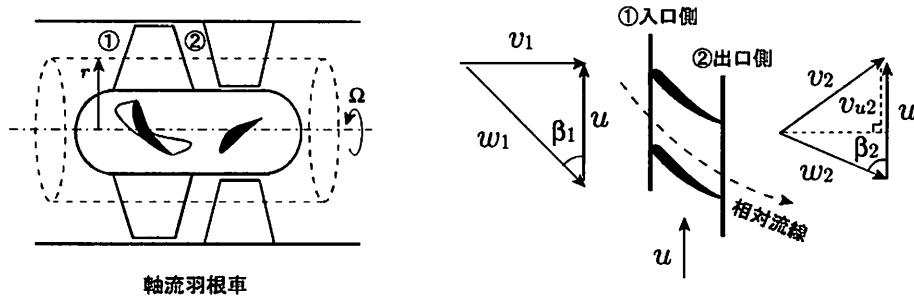


図 4: 軸流羽根車

#### [解答]

羽根車平均半径  $r = 300$  [mm] の位置において、羽根車の周速  $u$  は

$$\begin{aligned}
 u &= r \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = 2\pi n r \\
 &= 2\pi \times \left( \frac{1200}{60} \text{ [rps]} \right) \times (300 \times 10^{-3} \text{ [m]}) = 37.7 \text{ [m/s]}
 \end{aligned} \tag{23}$$

題意より、羽根車入口①において、流入する流れは（旋回がなく）軸方向なので、入口での速度三角形は直角三角形となり（図 4 参照）、その大きさは、 $v_1 = 33$  [m/s] である。羽

根車入口での速度三角形より，流入角  $\beta_1$  は

$$\beta_1 = \tan^{-1} \left( \frac{v_1}{u} \right) = \tan^{-1} \left( \frac{33[\text{m/s}]}{37.7[\text{m/s}]} \right) = 41.2 [^\circ] \quad (24)$$

題意より，羽根車出口②において，流出角  $\beta_2$  は

$$\beta_2 = \beta_1 + \delta = 41.2 [^\circ] + 18.0 [^\circ] = 59.2 [^\circ] \quad (25)$$

羽根車の入口と出口で流量は保存される．軸流羽根車の場合，羽根車入口と出口の断面積は変わらないので，羽根車出口での法線方向速度は入口での  $v_1$  に等しい．したがって，羽根車出口での速度三角形より，羽根車出口での絶対速度の周方向成分  $v_{u2}$  は

$$v_{u2} = u - \frac{v_1}{\tan \beta_2} = 37.7[\text{m/s}] - \frac{33[\text{m/s}]}{\tan(59.2 [^\circ])} = 18.0 [\text{m/s}] \quad (26)$$

羽根車出口②での絶対速度  $v_2$  は，速度三角形より，

$$v_2 = \sqrt{v_1^2 + v_{u2}^2} = \sqrt{(33[\text{m/s}])^2 + (18.0[\text{m/s}])^2} = 37.6 [\text{m/s}] \quad (27)$$

羽根車の周方向成分（周方向速度  $u$  の向き）に関する角運動量保存則より，軸流羽根車内部の流体全体を検査面にとれば，

$$\underbrace{\rho Q (r \times v_{u2})}_{\text{出口での角運動量}} - \underbrace{\rho Q (r \times v_{u1})}_{\text{入口での角運動量}} = \underbrace{T}_{\text{流体が軸流羽根車全体から受けるトルク}} \quad (28)$$

ただし， $v_{u1}$ ， $v_{u2}$  はそれぞれ，羽根車入口・出口における絶対速度  $v_1$ ， $v_2$  の周方向成分である（つまり， $v_{u1} = 0 [\text{m/s}]$ ）．この軸流羽根車の動力  $L$  は， $L = \underbrace{F \times r \Omega}_{=T} = T \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = 2\pi n T$  より，

$$L = 2\pi \rho Q n (r v_{u2} - r v_{u1}) \quad (29)$$

しかるに，一般に動力  $L$  は質量流量  $\dot{m}$  と理論揚程（オイラーヘッド） $H_{th}$  を用いて表せば，

$$L = \underbrace{\dot{m}}_{=\rho Q} g H_{th} \quad (30)$$

であるので，式 (29) と式 (30) から，羽根車入口での  $v_{u1}$  はゼロである（羽根車入口で流れは軸方向に流入する）ことに注意して，理論揚程  $H_{th}$  は，

$$\begin{aligned} H_{th} &= \frac{\Omega}{g} (r v_{u2} - r v_{u1}) = \frac{u v_{u2} - u v_{u1}}{g} = \frac{u(v_{u2} - v_{u1})}{g} \\ &= \frac{37.7[\text{m/s}] \times (18.0[\text{m/s}] - 0.0[\text{m/s}])}{9.8[\text{m/s}^2]} = 69.2 [\text{m}] \end{aligned} \quad (31)$$

なお，羽根車の周速  $u$  は式 (23) で求められていることに注意せよ．

## 例題 5

図 5 に示すような，遠心式羽根車がある．内径は  $D_1 (= 2r_1) = 0.1 \text{ [m]}$ ，外形は  $D_2 (= 2r_2) = 0.3 \text{ [m]}$  で，流入部と流出部の面積比は  $1 : 3$ ，羽根車の出口羽根角は  $\beta_2 = 45^\circ$  である．また，流体は予旋回なく流入する．羽根車入口での流入速度を  $v_1 = 10 \text{ [m/s]}$ ，羽根車の回転数を  $n = 2000 \text{ [rpm]}$  として，羽根車入口と出口での速度三角形を描き，羽根車入口の羽根角  $\beta_1$  と羽根車出口での半径方向速度  $v_r$  を求めよ．さらに，この羽根車の理論揚程（オイラーヘッド）を求めよ．

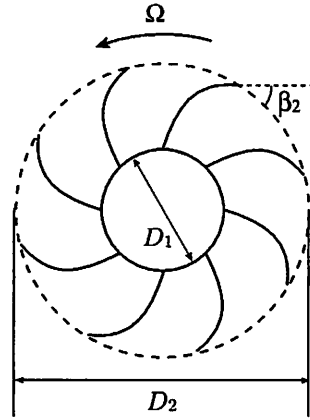


図 5: 遠心式羽根車

### [解答]

まず，羽根車入口において考える．

羽根車入口の周速  $u_1$  は，羽根車の回転角速度を  $\Omega \text{ [rad/s]}$  としたとき，

$$u_1 = \underbrace{r_1}_{=D_1/2} \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = \frac{0.1 \text{ [m]}}{2} \times \left( 2\pi \frac{2000}{60} \text{ [rps]} \right) = 10.5 \text{ [m/s]} \quad (32)$$

題意より，羽根車入口で流体は予旋回なく流入するので，羽根車入口での絶対速度  $v_1$  は半径方向であることが分かり，速度三角形は直角三角形となる（図 6 参照）．したがって，羽根車入口での相対速度（羽根車と共に回転する座標系から見た，羽根に沿う速度） $w_1$  は，

$$w_1 = \sqrt{v_1^2 + u_1^2} = \sqrt{(10.0 \text{ [m/s]})^2 + (10.5 \text{ [m/s]})^2} = 14.5 \text{ [m/s]} \quad (33)$$

また，羽根車入口の羽根角  $\beta_1$  は，

$$\beta_1 = \tan^{-1} \left( \frac{v_1}{u_1} \right) = \tan^{-1} \left( \frac{10.0 \text{ [m/s]}}{10.5 \text{ [m/s]}} \right) = 43.6^\circ \quad (34)$$

次に，羽根車出口において考える．

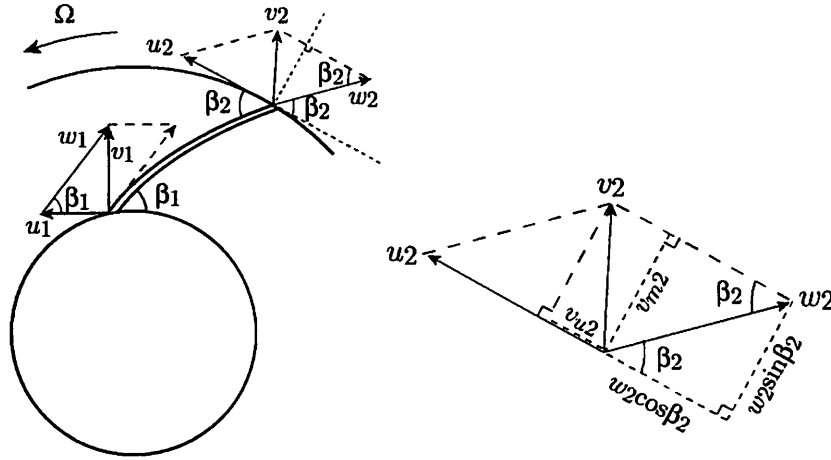


図 6: 遠心式羽根車の速度三角形

羽根車入口と出口での半径方向速度成分を  $v_{m1}$ ,  $v_{m2}$  としたとき, 羽根車入口断面と出口断面での連続の式より (羽根車入口と出口の幅をそれぞれ  $B_1$ ,  $B_2$  とする),

$$(2\pi \underbrace{r_1}_{=D_1/2} B_1) v_{m1} = (2\pi \underbrace{r_2}_{=D_2/2} B_2) v_{m2} \quad \Leftrightarrow \quad v_{m2} = \frac{2\pi(D_1/2)B_1}{2\pi(D_2/2)B_2} v_{m1} = \frac{1}{3} \times 10[\text{m/s}] = 3.3[\text{m/s}] \quad (35)$$

ただし, 上式を計算する際, 羽根車入口での半径方向速度  $v_{m1} = v_1$  と, 羽根車入口と出口の断面積比が 1:3 なる関係を用いた.

羽根車出口の周速  $u_2$  は, 羽根車の回転角速度を  $\Omega$  [rad/s] としたとき,

$$u_2 = \underbrace{r_2}_{=D_2/2} \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = \frac{0.3[\text{m/s}]}{2} \times \left( 2\pi \frac{2000}{60} \right) = 31.4[\text{m/s}] \quad (36)$$

羽根車出口での速度三角形より,

$$v_{m2} = w_2 \sin \beta_2 \quad \Leftrightarrow \quad w_2 = \frac{v_{m2}}{\sin \beta_2} = \frac{3.3[\text{m/s}]}{\sin(45^\circ)} = 4.7[\text{m/s}] \quad (37)$$

羽根車出口における絶対速度  $v_2$  の周方向成分  $v_{u2}$  は, 速度三角形より,

$$v_{u2} = u_2 - w_2 \cos \beta_2 = 31.4[\text{m/s}] - 4.7[\text{m/s}] \times \cos(45^\circ) = 28.1[\text{m/s}] \quad (38)$$

したがって, 羽根車出口での絶対速度  $v_2$  は,

$$v_2 = \sqrt{v_{u2}^2 + v_{m2}^2} = \sqrt{(28.1[\text{m/s}])^2 + (3.3[\text{m/s}])^2} = 28.3[\text{m/s}] \quad (39)$$

となる<sup>1</sup>.

<sup>1</sup>羽根車出口での絶対速度  $v_2$  は, 余弦定理を用いて,

$$v_2^2 = u_2^2 + w_2^2 - 2u_2w_2 \cos \beta_2 \quad (40)$$

のようにしても求めることができる.



次に、理論揚程（オイラーヘッド） $H_{th}$  について考える．羽根車の周方向成分に関する角運動量保存則より，ポンプ内部の流体全体を検査面にとれば，

$$\underbrace{\rho Q (r_2 \times v_{u2})}_{\text{出口での角運動量}} - \underbrace{\rho Q (r_1 \times v_{u1})}_{\text{入口での角運動量}} = \underbrace{T}_{\text{流体がポンプ全体から受けるトルク}} \quad (41)$$

ただし， $v_{u1}$ ， $v_{u2}$  はそれぞれ，羽根車入口・出口における絶対速度  $v_1$ ， $v_2$  の周方向成分である．このポンプの動力  $L$  は， $L = \underbrace{F \times r}_{=T} \Omega = \underbrace{T \Omega}_{=2\pi n} = 2\pi n T$  より，

$$L = 2\pi \rho Q n (r_2 v_{u2} - r_1 v_{u1}) \quad (42)$$

しかるに，一般に動力  $L$  は質量流量  $\dot{m}$  と理論揚程（オイラーヘッド） $H_{th}$  を用いて表せば，

$$L = \underbrace{\dot{m}}_{=\rho Q} g H_{th} \quad (43)$$

であるので，式 (42) と式 (43) から，羽根車入口での  $v_{u1}$  はゼロである（羽根車入口で流れは予旋回なく（半径方向に）流入する）ことに注意して，理論揚程  $H_{th}$  は，

$$\begin{aligned} H_{th} &= \frac{\Omega}{g} (r_2 v_{u2} - r_1 v_{u1}) = \frac{u_2 v_{u2} - u_1 v_{u1}}{g} \\ &= \frac{31.4[\text{m/s}] \times 28.1[\text{m/s}] - 10.5[\text{m/s}] \times 0.0[\text{m/s}]}{9.8[\text{m/s}^2]} = 90.0[\text{m}] \end{aligned} \quad (44)$$

## 例題 6

図 7 に示すような，軸流式羽根車がある．羽根車の入口羽根角  $\beta_1 = 45^\circ$ ，出口羽根角  $\beta_2 = 60^\circ$  である．作動流体は，羽根車入口で予旋回なく流入する．羽根車回転数を  $n = 9000/\pi [\text{rpm}]$  として，羽根車平均半径  $r = 0.1 [\text{m}]$  における速度三角形を描け．また，この羽根車の理論揚程（オイラーヘッド）を求めよ．

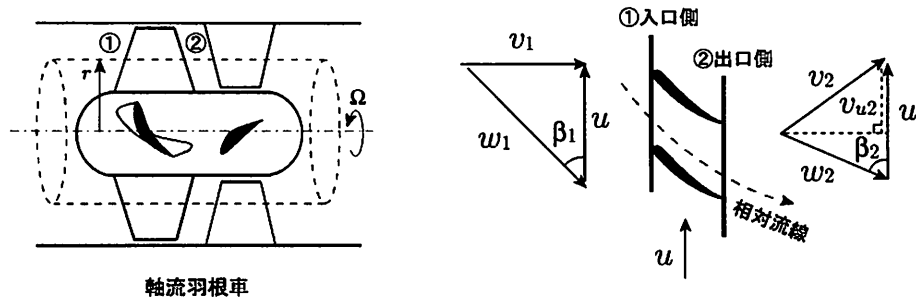


図 7: 軸流式羽根車

[解答]

羽根車平均半径  $r = 0.1$  [m] に位置において、羽根車の周速  $u$  は、

$$u = r \underbrace{\Omega}_{=2\pi n} = 2\pi n r = 2\pi \times \left( \frac{9000}{60\pi} [\text{rps}] \right) \times 0.1 [\text{m}] = 30 [\text{m/s}] \quad (45)$$

題意より、羽根車入口①において、流入する流れは（予旋回がなく）軸方向であり、かつ、入口の羽根角が  $\beta_1 = 45^\circ$  であることから、羽根車入口での速度三角形は直角二等辺三角形となる（図 7 参照）。すなわち、羽根車入口での絶対速度  $v_1$  は周速度  $u_1$  と一致し、相対速度  $w_1$  は

$$w_1 = \sqrt{v_1^2 + u_1^2} = \sqrt{(30.0 [\text{m/s}])^2 + (30.0 [\text{m/s}])^2} = 42.3 [\text{m/s}] \quad (46)$$

軸流羽根車の場合、羽根車入口①と出口②で断面積変化がないので、連続の式から、軸流方向速度（法線方向速度）は入口での絶対速度  $v_1$  に等しい。したがって、羽根車出口での速度三角形より、羽根車出口での絶対速度の周方向成分  $v_{u2}$  は

$$v_{u2} = u - \frac{v_1}{\tan \beta_2} = 30.0 [\text{m/s}] - \frac{30.0 [\text{m/s}]}{\tan (60.0^\circ)} = 12.7 [\text{m/s}] \quad (47)$$

羽根車出口②での絶対速度  $v_2$  は、速度三角形より、

$$v_2 = \sqrt{v_1^2 + v_{u2}^2} = \sqrt{(30.0 [\text{m/s}])^2 + (12.7 [\text{m/s}])^2} = 32.6 [\text{m/s}] \quad (48)$$

この軸流式羽根車の理論揚程（オイラーヘッド）は、式 (31) と同様にして、

$$\begin{aligned} H_{th} &= \frac{\underbrace{2\pi n}_{\Omega}}{g} (rv_{u2} - rv_{u1}) = \frac{uv_{u2} - uv_{u1}}{g} = \frac{u(v_{u2} - v_{u1})}{g} \\ &= \frac{30.0 [\text{m/s}] \times (12.7 [\text{m/s}] - 0.0 [\text{m/s}])}{9.8 [\text{m/s}^2]} = 38.9 [\text{m}] \end{aligned} \quad (49)$$